

聴覚障害者に対するコミュニケーションの方法

☆ ^{こう}口 ^わ話…相手と向かい合って、ややゆっくりと唇の動きも少し大きくハッキリと話をする。

☆ ^{ひつ}筆 ^{だん}談…紙とペンなどを用いて、言いたいことを要領よく書き相手に伝える。



☆ ^{そら}空 ^{もじ}文字…空間に文字を書く。ゆっくり・はっきりと。(相手には文字が逆に見える)

☆ ^{ゆび}指 ^{もじ}文字…50音を記号化したもの。人名や地名等に多く使われる。



☆ ^{しゅ}手 ^わ話…最も多く使用されている。両手の動き、顔の表情、上半身または体全体の動作で行う。



聴覚障害があることは外見から判断する事がむずかしく、周囲に気づいてもらえない状況が多々あり、会話だけでなく、さまざまな環境音の情報も入りにくく、場合によっては命に関わることもあります。「聴覚障害」といっても、聞こえの程度は人によってさまざまです。

岐阜県聴覚障害者情報センターでは、聴覚障害に関わる基礎知識の学習をはじめ、筆談等の体験を交えた「アウトリーチ事業」を実施しております。

職場での研修、地域での勉強会等にぜひご活用下さい。詳細については情報センターまでお問い合わせ下さい。

岐阜県聴覚障害者情報センター

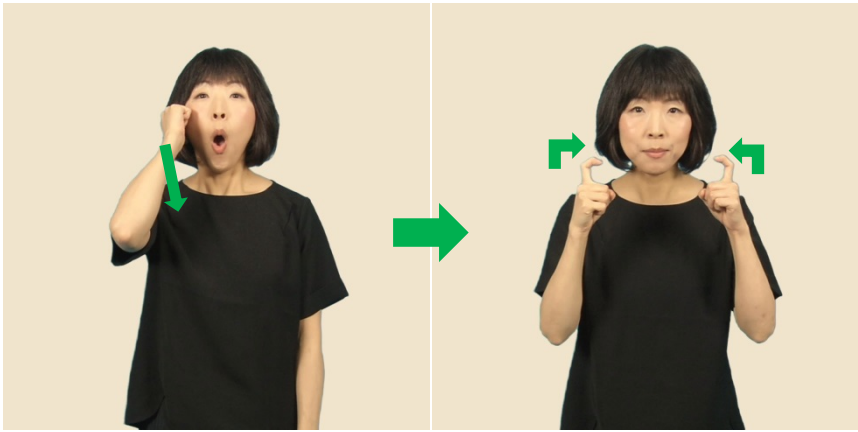
〒500-8384 岐阜市藪田南 5-14-53 県民ふれあい会館 1棟 6階

TEL 058-213-6786

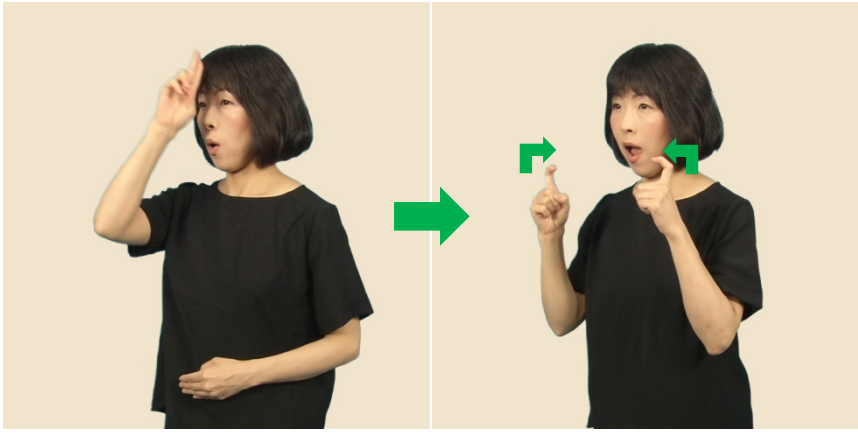
FAX 058-275-6066

手話のあいさつをやってみよう①

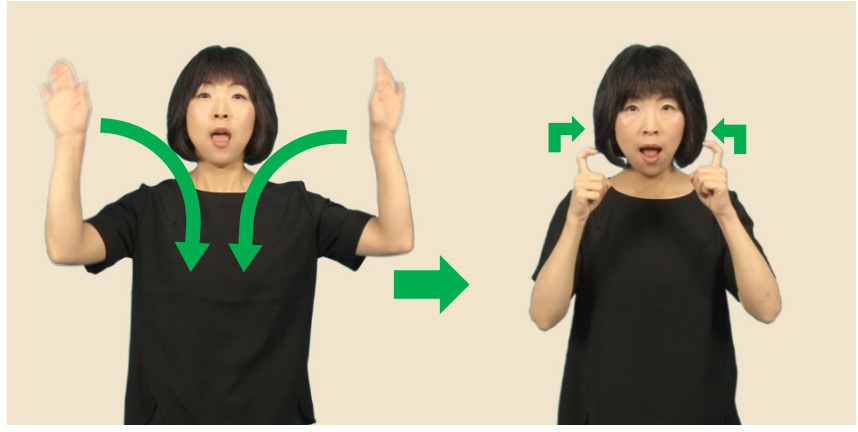
おせよんいけごまか



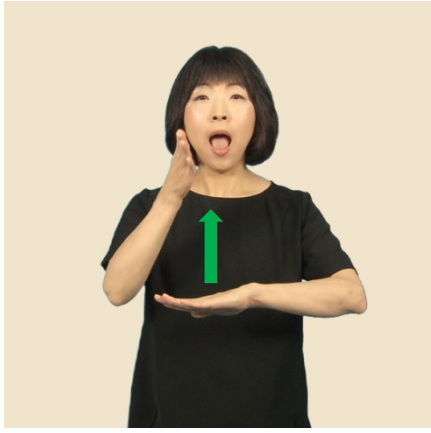
いんいさば



いんせえば

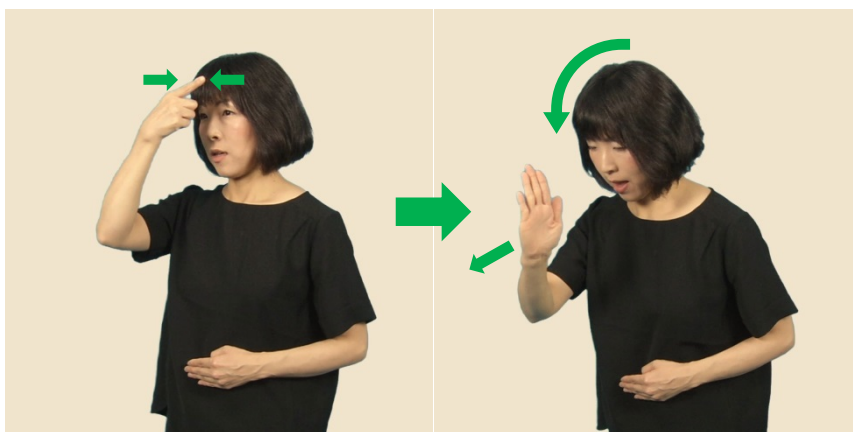


おごなうん

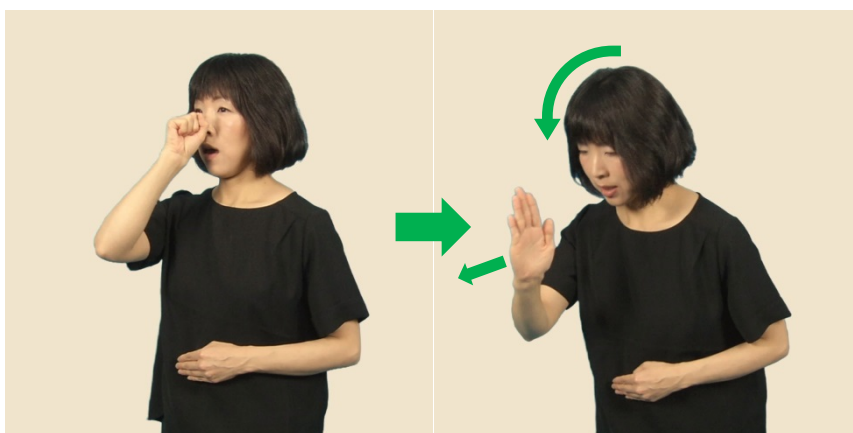


手話のあいさつをやってみよう②

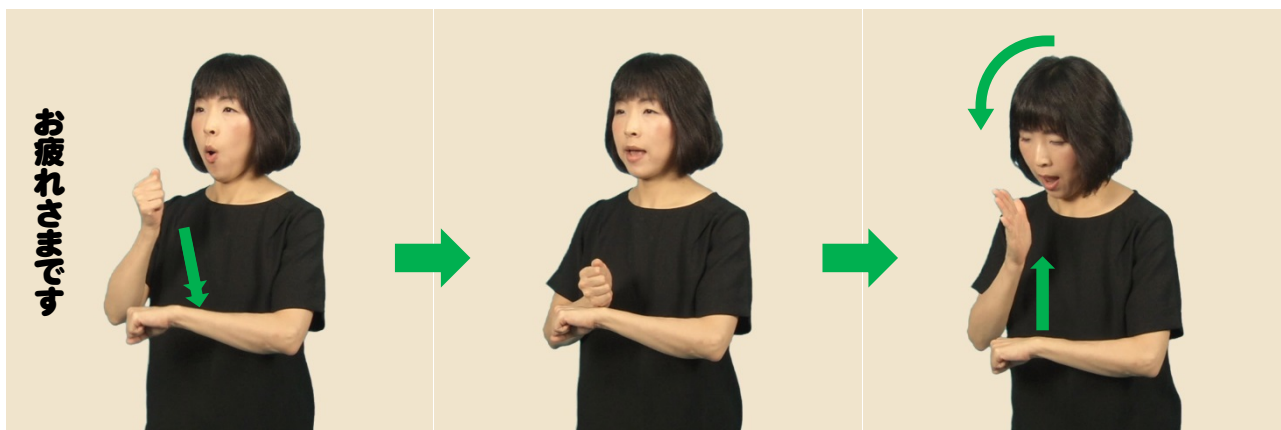
すみません



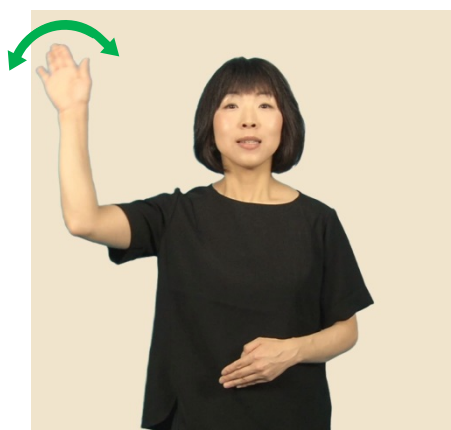
ちんちんお願ひごまつ



お疲れ様です

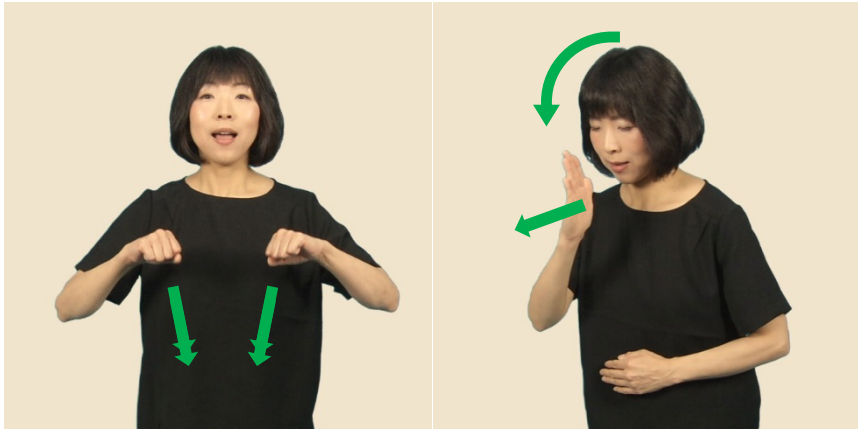


こんにちは

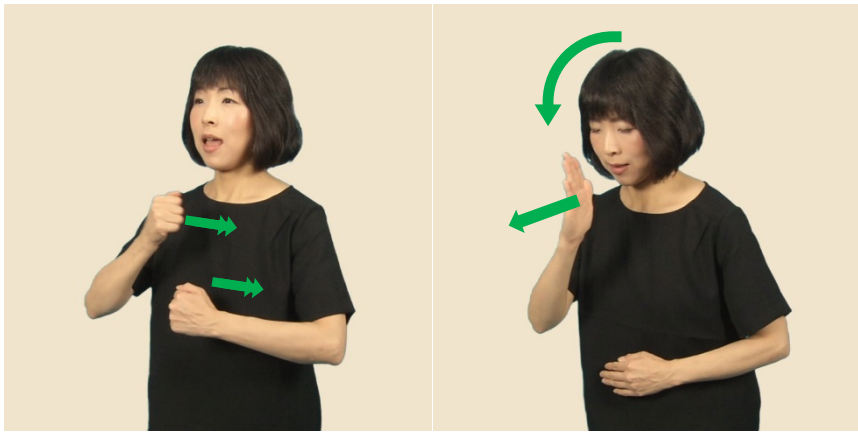


手話の話し言葉をやってみよう①

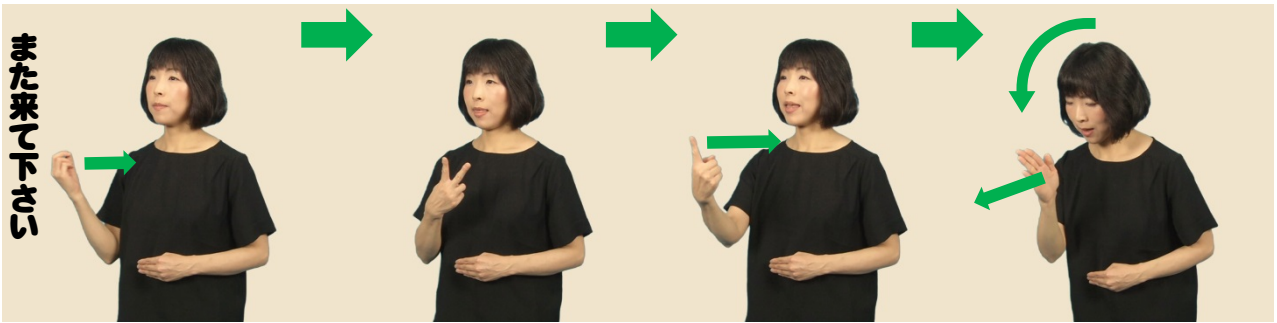
頑張ってください



頑張っていきます



また来てください

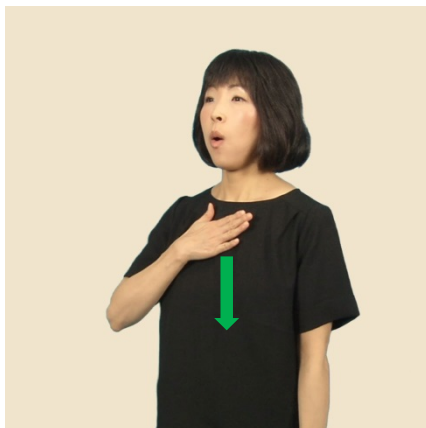


必ずお持ちください

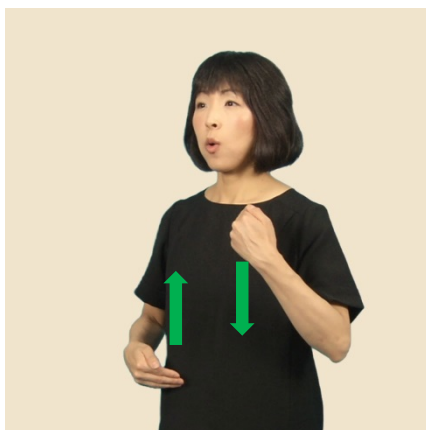


手話の話し言葉をやってみよう②

分かりました



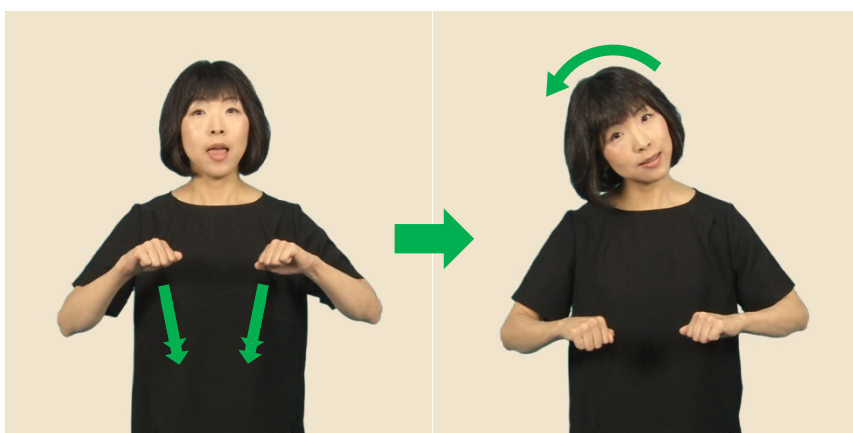
うれしい



大丈夫ですか？



元気ですか？



筆談をする場合の注意点

- 筆談とは？

- メモ用紙などに字を書いてコミュニケーションをとる方法です。



- 要旨だけを簡単にまとめて書く。

- 一字一句でいねいに書くより、必要なことだけを簡単にまとめて書くようにした方が、スムーズにコミュニケーションできます。

○〈良い書き方の例〉

調べるのに、約 10 分かかります。

×〈悪い書き方の例〉

只今込み合っていますので、お調べするのに約10分かかります。

- 漢字を適切に使って、意味がわかるようにする。

- 難しい言葉は避けるようにしますが、ひらがなばかりでもかえって意味がわかりにくくなります。表意文字である漢字を適切に使うと、読めなくても意味が通じやすくなります。

○〈良い書き方の例〉

調べるのに、約 10 分かかります。

×〈悪い書き方の例〉

しらべるのに、やくじゅっぶんかかります。

- 抽象的な言葉や二重否定は使わない。

- 抽象的な言葉や二重否定を使うと誤解を招くことがあります。遠回しな言い方は避け、簡潔にまとめると言いたいことが伝わります。

○〈良い書き方の例〉

資料をお渡しするのに、約30分かかります。

×〈悪い書き方の例〉

資料をお渡しできないわけではないのですが、用意するのに時間がかかります。

引用元：岐阜県障がいのある方への配慮マニュアル